

Canon EF LENS

EF100mm f/2.8L MACRO IS USM



JPN

使用説明書

IMAGE STABILIZER
ULTRASONIC

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF100mm F2.8L MACRO IS USMは、手ブレ補正機能を備え、一般撮影から等倍（1：1）までの撮影ができる、EOSカメラ用のマクロレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

特長

1. 一般撮影時シャッター速度換算で、約4段分*の手ブレ補正機能を備えています。
また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。
2. 振動ジャイロと加速度センサーを採用することにより、近接撮影においても高い手ブレ補正効果を実現しています。
3. UDレンズを採用することにより、優れた描写性能を実現しています。

4. 超音波モーター（USM）搭載により、高速で静かなオートフォーカスを実現しています。
5. オートフォーカスモード（ONE SHOT AF時）のまま、合焦後にマニュアルでピント調整ができます。
6. 円形絞りの採用により、なめらかで美しいボケ味が得られます。
7. キヤノン接写専用ストロボを使用して、接写ストロボ撮影が簡単に行えます。またインナーフォーカスの採用により、接写専用ストロボを装着したままオートフォーカス撮影ができます。
8. 密閉構造の採用により、優れた防塵・防滴性能を備えています。

* [1/焦点距離] 秒を基準にしています。
一般撮影時に手ブレを防ぐためには通常「1/焦点距離」秒以上のシャッター速度が必要といわれています。

安全上のご注意

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。

本文中のマークについて

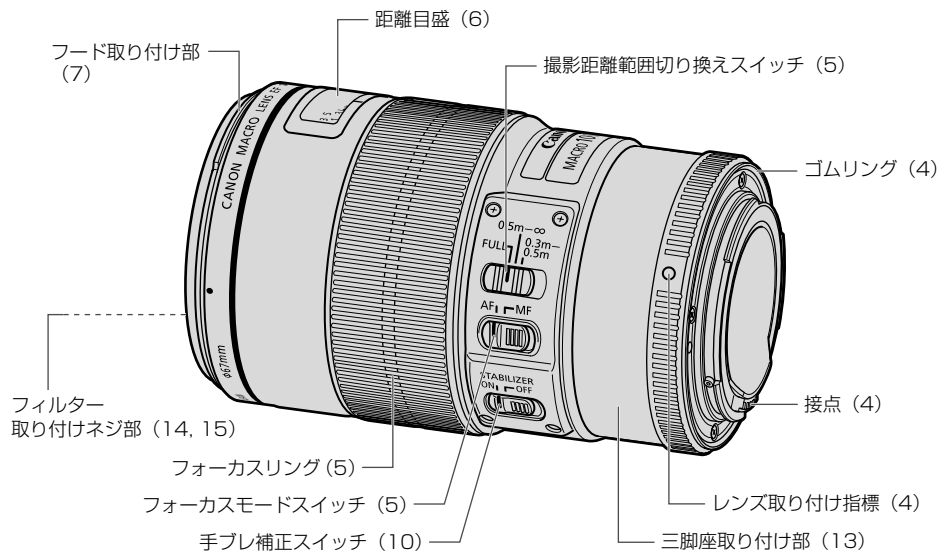


撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

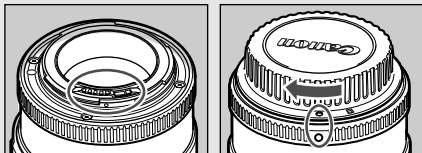
各部の名称



(**) の**部は参照ページを示しています。

1. レンズの着脱

レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

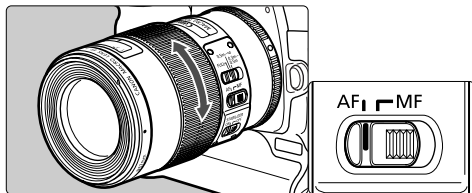


- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。



このレンズでは、防塵・防滴性能を向上させるため、マウント部にゴムリングを採用しています。レンズの着脱を繰り返すと、カメラ本体のマウントの外周部分にゴムリングの細い擦れ跡が付くことがあります。使用上の問題はありません。なお、ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。(有料)

2. フォーカスモードの設定

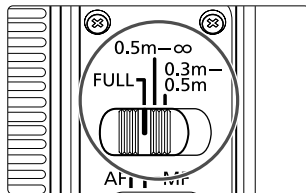


オートフォーカス（AF）で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス（MF）で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを回します。フォーカスリングは、フォーカスモードに関係なくいつでも動かせます。



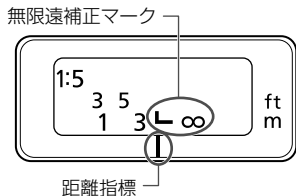
カメラのAFモードがONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッター半押し状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。（フルタイムマニュアルフォーカス）

3. 撮影距離範囲の切り換え



FULL（0.3m-∞）、0.3m-0.5mまたは0.5m-∞の撮影距離範囲をスイッチで選べます。撮影距離に応じた設定にすることで、AF作動時間が短くなります。

4. 無限遠補正マーク



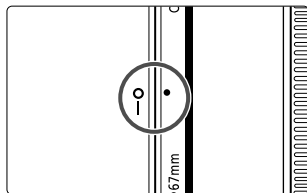
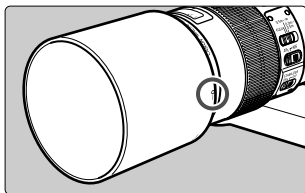
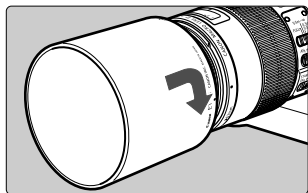
温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（∞）位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、Lマークの縦線と距離指標が合うところです。

I 無限遠の被写体にMFで正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

* ライブビュー撮影可能なカメラの場合

5. フード

レンズフードET-73は、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端の赤指標をあわせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。
- 接写専用ストロボを使用するときはフードを外してください。

6. 撮影について

一般撮影

中望遠レンズとして、ポートレート撮影など、通常の一般撮影に使用できます。

近接撮影

最大撮影倍率1：1（等倍）までの近接撮影（最短撮影距離30cm）ができます。撮影距離は、被写体から撮像面までの距離です。なおレンズ先端から被写体までの距離（ワーキングディスタンス）は約14cmです。

一般に近接撮影では、撮影倍率が高くなるにしたがい手ブレを防ぐシャッター速度が速くなります。撮影条件により異なりますが、一般撮影に対し更に1～2段速いシャッター速度が必要になります。

このレンズでは撮影倍率0.5倍時に約3段、等倍撮影時に約2段の手ブレ補正効果を備えています。*

* 撮影条件により異なります。



近接撮影では、被写界深度が浅くなるため、ピント合わせは、慎重に行ってください。



- 撮影倍率とは、被写体の大きさと撮像面上の像の大きさの比率のことです。距離目盛上に1：Xで表示しています。
- 被写界深度の確認は、カメラの被写界深度確認機能を利用してください。

7. 露出について

露出の決め方

TTL測光により撮影するときは、レンズを透過した光の量を測るため、露出補正の必要はありません。全ての撮影距離で、TTL測光によりAE（自動露出）撮影ができます。任意の撮影モードを選択し、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影倍率と実効FNo.

カメラに表示される絞り数値は、ピントが無限遠（ ∞ ）のときの数値です。実際の絞り（実効FNo.）は、撮影距離が近づく（撮影倍率が高くなる）にしたがって暗く（実効FNo.数値が大きくなる）になります。これは一般撮影の領域では露出にほとんど影響はありませんが、近接撮影の場合、実効FNo.の変化は無視できません。

単体露出計を使用して露出を決めるときは、次の露出倍数を加えて撮影してください。

撮影倍率	1:5	1:3	1:2	1:1.5	1:1
実効FNo.	3.6	4.1	4.6	5.0	5.9
露出倍数 (段)*	$+\frac{2}{3}$	+1	$+1\frac{1}{3}$	$+1\frac{2}{3}$	+2
	$+\frac{1}{2}$	+1	$+1\frac{1}{2}$		+2

*上段： $\frac{1}{3}$ 段表示 下段： $\frac{1}{2}$ 段表示

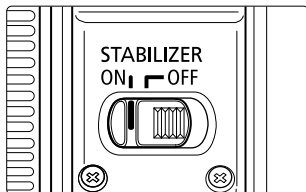


- 近接撮影の適正露出の決定には、被写体条件が大きく影響します。
同じ被写体に対し、できるだけ露出を変えて撮影しておくことをおすすめします。
- 近接撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE (**Av**) またはマニュアル露出 (**M**) をおすすめします。

8. 手ブレ補正機能

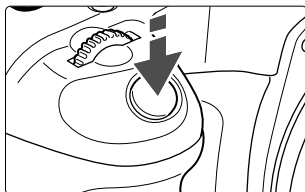
手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。



1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。



2 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。



ON



OFF

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。

- 近接撮影
- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況
- 移動する被写体を流し撮りする場合

手ブレ補正機能



- 撮影距離が短くなるにしたがい、手ブレ補正効果は低下します。
- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチを **OFF** にしてください。 **ON** にすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を使用すると、通常より電力が必要なため、撮影可能枚数が少なくなります。
- シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正が作動しています。この間はレンズを外さないでください。故障の原因になります。
- EOS-1V/HS、3、7、7s、55、Kiss III、Kiss III L、IX E、D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正機能は作動しません。



- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合もブレ補正効果が得られます。ただし三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能を **OFF** にした方が良い場合があります。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II/EF25 II を使用しても作動します。
- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAF作動操作を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

9. 手持ちによる近接撮影について

近接撮影では、一般撮影よりも手ブレの影響が大きくなるため、手ブレ補正効果は少なくなります。

また、被写界深度も極めて浅くなるうえ、カメラの前後方向の動きにより、ピント移動が生じます。

近接撮影を手持ちで行うときは、次の方法で手ブレやピント移動をできるだけ少なくして、慎重に撮影してください。

カメラをしっかり構える

右のイラストのように、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

AIサーボAFで撮影する

近接撮影では、カメラのAFモードをAIサーボAFに設定して、AFで撮影することをおすすめします。

AIサーボAFにより、近接撮影時のピント移動をおさえることができます。

詳しくは、カメラの使用説明書を参照してください。



両ひじを、机などで支えてください。



カメラを持った腕のひじを、ひざで支えてください。



しっかりした壁などで、体と腕を支えてください。

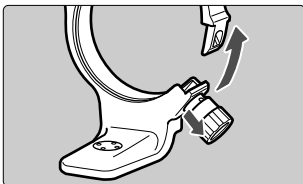
10. 三脚座（別売）の使用方法

レボルビング（回転）

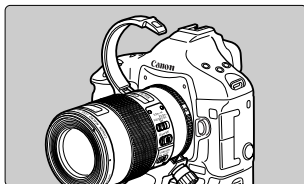
このレンズは別売のリング式三脚座D（B）が使用できます。三脚座の画面切り換えロックつまみをゆるめると、カメラごと任意に回転させて画面の縦位置と横位置が変えられます。

着脱

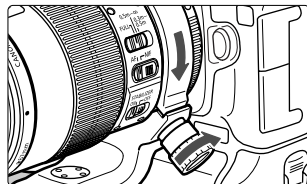
取り外しと取り付けは次の手順で行います。



1 ロックつまみを空回りするまでゆるめ（約3回転）、矢印の方向にロックつまみを引っ張りながら、アームを開放します。



2 アームを開放させたまま、三脚座を取り外します。



3 取り付けは、ロックつまみを引っ張りながら、アームを元の位置まで戻し、ロックつまみをしっかりと締めます。

! EOSカメラの機種によっては、バッテリーパックまたは縦位置グリップを装着すると三脚座が当たることがあります。バッテリーパック/縦位置グリップまたは三脚座を外して使用してください。



カメラにレンズが装着された状態でも、三脚座の着脱ができます。

11. フィルター(別売)

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。



- フィルターとキヤノンマクロ専用ストロボを併用することはできません。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C B (67mm) を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外して行ってください。

12. エクステンションチューブ(別売)

エクステンションチューブEF12 II/EF25 II を使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

	撮影距離範囲 (mm)		撮影倍率(倍)	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	302	1036	1.17	0.12
EF25 II	307	591	1.37	0.27

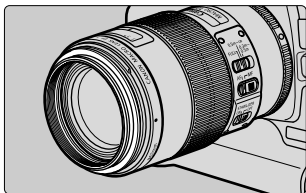


正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

13. 接写専用ストロボ(別売)

キャノンマクロリングライトストロボMR-14EXまたはマクロツインライトMT-24EXを使用して、等倍までの近接ストロボ撮影をE-TTL自動調光によるフルオートで行うことができます。

マクロライトアダプター67(別売)をレンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてから使用してください。



- MR-14EXまたはMT-24EXの使い方などについては、それぞれの使用説明書を参照してください。
- 近接撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE(Av)またはマニュアル露出(M)をおすすめします。

主な仕様

焦点距離・明るさ	100mm・F2.8
レンズ構成	12群15枚
最小絞り	F32
画角	対角 24°、垂直 14°、水平 20°
最短撮影距離	0.3m
最大撮影倍率	1倍
画界	24×36mm (0.3m時)
フィルター径	67mm
最大径×長さ	77.7×123mm
質量	625g
フード	ET-73
レンズキャップ	E-67U
ケース	LP1219
三脚座	リング式三脚座D (B) (別売)

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。キャップおよびダストキャップをつけたときの長さは表示寸法+21.5mmになります。
- 大きさ・質量は本体のみの値です。
- エクステンダーEF1.4X II/EF2X II は使用できません。またクローズアップレンズは使用可能なサイズがありません。
- 絞り値はカメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造終了後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、キヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノン EFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90001（直通）

受付時間〈平日〉9：00～20：00〈土/日/祝〉10：00～17：00〈1/1～3は休ませていただきます。〉

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-3455-9353をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

